

松沢範士の弓道講座 (第4回)

研修・講習会で気づいた事項



1. 入・退場

動作おおむね可、礼の対象を見ない人正対しない人あり。入場から本座まで1呼吸で4歩 歩き方がスロー。
目は鼻頭を通して四メートル先 下向きの人目立つ。

2. 開き足

3動作が目立つ。左足のかぶせが浅いので右膝を引く形となっている。

3. 肌脱ぎ

籐頭が高い。動作中弓の動く人あり。

4. 矢番え

立てた弓の弦は鼻正面ずれる人あり。
矢番えの際弓動く、また、左肘の下がる人目立つ。

5. 胴造り

縦横十文字の関心が低い、したがって離れに体動く、縦線は最後までしっかりと確保する。
体重を足の裏に感じる・ひかがみを伸ばす・気を丹田に置く。

6. 大三

矢尺の半分が良い、引き過ぎと、矢先下がりに注意する。
確認の方法 カケの紐が顔の正面が可。

7. 手の内

握りが深く堅いので弓返り手開き見える。
また、上押し多いが中押しが望ましい。
卵中・傘の手の内の心得。

8. 息合い

一動作一呼吸、関心が低くリズムがでない。
特に引き分けから会までの作り方を工夫する。

9. 会

浅い人多し 深会の追及 手力の弓多し 身体一杯を使った詰めあいと伸び合いは良射の

絶対的条件。

会の六条件 (頬づけ・胸弦・的付け・矢尺・縦横十文字・詰と伸び)

10. 離れ

バネなし放している。射法訓の胸割り追及したい。

11. 残身

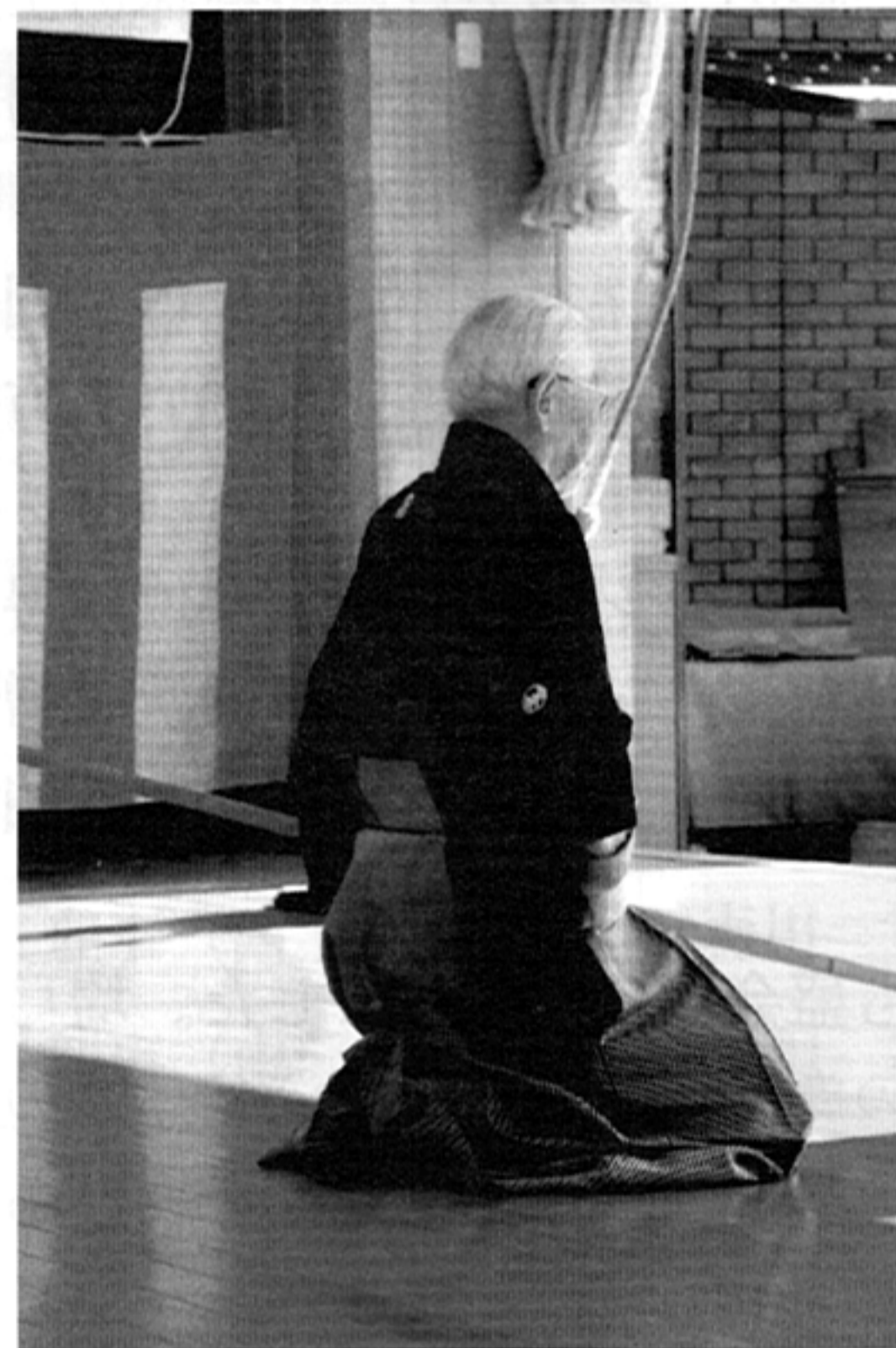
早仕舞いは味がない。離れの姿勢を崩さず気合を伸ばす。
時間的には会の半分程度と言われている。

12. 立ちの入れ替え

次立ちの大前は前立ち落ちの退りを確認して射位に進む。
落ちは後退の場合、後ろの隔壁に注意する。

13. 平常心とは

当てよう失敗しないようにと思うと焦りがでて、自分本来の射が表現できない、どうせ私の射は此の位と開き直って、自分の持っているものを表現すると案外容易に平常心を保って力が出るものである。 以上



正気を放つ毅然とした姿

